

8. サクシニルコリン投与後にみられた頻脈発生の2症例(第五回北海道臨床歯科麻酔研究会)

著者名(日)	高田 知明, 遠藤 裕一, 納谷 康男, 工藤 勝, 岩本 暁, 今崎 達也, 大友 文夫, 國分 正廣, 新家 昇
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	10
号	2
ページ	127
発行年	1991-12-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00007678/

7. 局所麻酔薬投与後アナフィラキシー様反応をおこした6症例について

工藤 勝, 岩本 暁, 今崎達也
大和紀正, 高田知明, 納谷康男
遠藤裕一, 大友文夫, 國分正廣
新家 昇

(東日本学園大学歯学部歯科麻酔学講座)

歯科治療中に起こる患者の全身異常は、局所麻酔注射に伴って発生する事が多い。これらの全身異常のうち最も頻度の高いものは神経性・疼痛性ショックであり、時にはもともと患者が持っていた疾患が治療を契機に増悪する場合などもある。一方、局所麻酔薬やその中に添加されている薬剤による過敏症や中毒などもその発生原因の一つである。これら局所麻酔薬による副作用について、数々の研究がなされているが、未だ解明されていないのが局所麻酔薬アレルギーである。全国歯科医師会会員を対象とした日本歯科麻酔学会事故対策委員会の調査でも年間数例の局所麻酔薬アレルギーが発生したと報告されている。本講座ではリドカイン、プロカインおよび防腐剤として添加されているメチルパラベンについてその特

異的血中IgE抗体をIn vitroで検出する検出法(RAST)を開発し報告した。そこで我々は、過去に局所麻酔薬でアナフィラキシー様反応を起こしたとして血中Ig-E抗体の検査を依頼された6名について、その異常を起こした時の様子をアンケート調査表にもとづいて分析・検討したので報告する。なお、これら6名の血中Ig-E抗体検査法(RAST法)の結果は全て陰性であった。調査項目は局所麻酔薬に対する既往歴、アレルギー疾患の既往、使用した局所麻酔薬の種類、その使用量、投与部位、異常が起こるまでの時間、異常の内容について、異常がおこる以前に併用していた薬物の有無、異常が起きてからの処置、症状の変化そして患者の転帰などについてである。また、血液生化学検査の結果についても報告する。

8. サクシニルコリン投与後にみられた頻脈発生の2症例

高田知明, 遠藤裕一, 納谷康男
工藤 勝, 岩本 暁, 今崎達也
大友文夫, 國分正廣, 新家 昇

(東日本学園大学歯学部歯科麻酔学講座)

全身麻酔導入時に多用するsuccinylcholineによる不正脈発生に関する報告は、徐脈、心停止など心臓に対し、抑制的な作用を呈したとするものが多い。その機序については統一した見解がないが、succinylcholineの分解産物であるsuccinyl-monocholelineやcholineによる洞房あるいは房室結節のムスカリン受容体に対する刺激作用のためであろうと推測されている。今回、我々は酸素、笑気、ハロセンあるいは酸素、笑気、セボフルレンのmaskで導入した患者に対し、succinylcholineを投与したところ、心拍数が急激に170回/min.前後まで上昇した症例

を2例経験した。両症例ともsuccinylcholine投与直後に発生し、他に使用したリドカイン、硫酸アトロピンによる作用とは考えがたかった。また、頻脈は数分から十数分の間に特に処置することなく自然下降を示した。このようなsuccinylcholine投与後に見られる頻脈の報告は少なく、succinylcholineのカテコレミン上昇作用によるものとしているものが若干みられる程度である。今回我々はsuccinylcholineの特に頻脈に関連する報告から、その発生機序について文献的考察を中心に報告する。